



ふらり らい ぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 187

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室についてご紹介します。

問) 休室期間中、図書室ではどのような作業をしているのですか？
休室期間は、年に何回、何月頃にありますか？

答) ポスターやホームページ上でもお知らせの通り、3月1日(火)から14日(月)までの間、図書室は休室となります。
休室期間中、図書室内では以下のような作業が行われています。
昭和館図書室では現在、年に1度、3月上旬頃に休室期間を設けています。

① 蔵書点検

図書や雑誌が決められた書架に記号通り正しく並んでいるかを点検する作業です。誤った書架に本が置かれていると(「誤配架」といいます)、お客様から請求をお受けした際、書庫からお出しするまでに大変な時間がかかってしまいます。

② 新着資料の登録と配架

新着資料のデータを図書室の検索システムに登録し、所定の書架に資料を配置する作業です(「配架」といいます)。一度に大量の本を受入・配架するため、書庫内の書棚間で「本の大移動」が行われます。そのため、一時的に資料の提供ができなくなります。

③ 資料の補修

よく利用される図書や古い雑誌の中には、ページが外れたり、破れ等の傷みが目立つものが出てきます。それらの補修作業をまとめて行います。

3月15日(火)からは、新たな資料を加えて、皆様のご利用をお待ちしております！





戦時下の節分

2月3日は節分です。「鬼は外、福は内」と大声で唱えながら豆をまいて災いを追い払います。煎った大豆には邪気をはらう力があるとされ、豆をまいたあとで自分の年齢の数（地域によって1つ足したり引いたりする）だけ食べると、病気をしないとわれています。また焼いたイワシの頭をヒイラギの枝に刺し、魔除けとして玄関口にさす風習もあります。

◎参考文献『365日ものしり百科 2月』(386/Ta87/2) 閉架

第二次世界大戦がはじまり、戦時体制下にあった時代の節分はどうしていたのでしょうか。そのときの様子が掲載されている資料をご紹介します。

今年からは八覚棒のような鬼の身代わりを作って、一人一粒主義で、自分の姓名を記した紙片に包み、これを以て疫払いとする事も戦時食糧確保の趣旨に沿った一案ではなかろうか。(節分 今年は一人一粒主義より抜粋)

『週刊婦女新聞』(昭和15年1月発行)(051/Sh99/2069) 閉架

新聞では節分用の豆が特配されるようにいられていたが、のろまの家の者の手には入らなかった。(以下中略)

「家でも、何か代用豆でもないかね」

今年は壽夫もどうやら国民学校へ入れるようにまでなったのだから、何とか豆をまきたい。

子供の玩具のでんでん太鼓のこわれを見たら、中に豆が入っていたので取って置いたのがある、といって義母が数粒の豆を出した。

「丁度一粒ずつだね」

七粒あった。炒るのも面倒なので、そのまま神棚に供えた。(以下中略)

柎に、鰯の頭であるが、これが手に入らなかったの、煮干しの頭を挿んで、玄関口にさした。(節分日記／持丸輔夫 昭和十六年 月曜 晴より抜粋)

『國民保育』(昭和18年1月発行)(376.12/H81/3-1) 閉架

※旧漢字、旧かなづかいは改めました

—図書室から—

図書室は平成28年3月1日(火)から14日(月)まで、蔵書点検のため休室いたします。

期間中はご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ NO. 187

2016年2月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1